

伊方出身の冒険家 遭難死から20年

河野兵市さん

情熱と記憶

県生涯学習センター(松山市上野町)

は9日、日本人で初めて北極点単独徒歩到達などに成功した伊方町出身の冒険家河野兵市さん(1958〜2001年)の家族から寄託された遺品17点を報道機関に公開した。うち、サハラ砂漠縦断時の記録ノートなど8点は初公開で、県まなび推進課の富吉将平専門学芸員は「まめで繊細な河野さんの人柄が随所に感じられる品が多い」と話している。



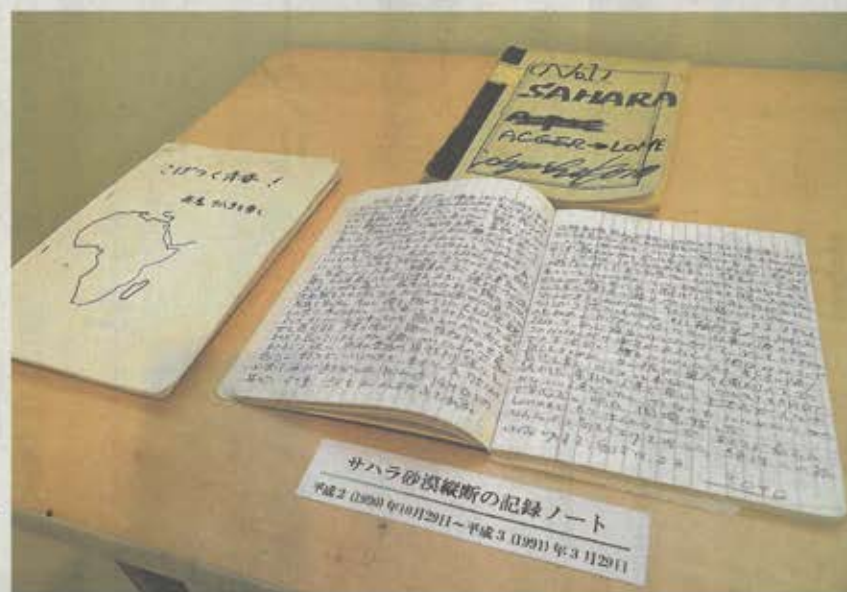
河野兵市さんが北極点到達時に使用していたソリ(9日午前、松山市上野町)

県生涯学習センター 寄託の遺品一般公開へ



河野兵市さん

河野さんは旧瀬戸町に生まれ、20代から冒険家として活動。2001年、北極点から愛媛までの約1万5千キロを、徒歩とシカヤックで帰る「リーチングホーム」挑戦中に遭難死した。今年3月、センターにある「愛媛人物博物館」の常設展示に河野さんが加わったことをきっかけに、家族と寄託の話が進み、先月末に1万1690点の手続が完了。一般公開を前に一部が公開された。



サハラ砂漠縦断の記録ノート
平成3(1991)年10月29日〜平成3(1991)年3月29日

河野兵市さんがサハラ砂漠を縦断した際に日々の所感をつづっていたノート(9日午前、松山市上野町)

このうち1990年10月から91年3月にかけてサハラ砂漠を縦断した際の記録ノートには、「夕べのアリにはマイッタ。体中をはいずり回りねれなかった」「この旅は成功する。自信がある」など、その日のできごとや心境などが日々1〜2ページにわたりにぎっしりと記されている。北極点到達時に使用していたソリや、アラスカのユーコン川を下った際のスケッチなどもあった。

同博物館では河野さんの没後20年に合わせ、今年12月に企画展を予定しているという。富吉専門学芸員は「20年がたち、河野さんのことを知らない人も増えてきている。一步一步、夢に向かって歩き続け目標を達成した河野さんの存在を多くの人が知ってほしい」と話した。

(増田有梨)